

デーリー東北

2023年(令和5年)11月15日(水曜日) (23)



季節外れに開花したニッコウキスゲ
=14日、八戸市の種差海岸

ニッコウキスゲ 季節外れの開花

種差海岸

八戸市の種差海岸で、初夏の風物詩として知られるニッコウキスゲの開花が確認された。植生を調査している八戸工業大工学科生命環境科学コースの田中義幸教授(群集生態学)が11日に発見。「この時期に咲くのはとても珍しい」と季節外れの開花に驚いている。

花が咲いたニッコウキスゲが見つかった場所は種差天然芝生地。例年は5月に咲き始め、6月に最盛期を迎える。7月には種になるという。

田中教授は2020年から、ドローンで空撮するなどして天然芝生地で植生調査を進めている。研究のため現地を訪れた10日午前10時ごろ、1株のつぼみが膨らんでいるのを目視で発見。11日に開花を確認した。ニッコウキスゲは14日も

地面付近で黄色い花を咲かせていた。開花の原因に関して、田中教授は分析が必要とした上で、「今年は気温が高かったり低かったりと、いつもと違う様子であることは確かだ」と話す。今後、気温など環境条件との関係性を調べる方針。

種差観光協会の柳沢卓美会長は、今回開花が確認された場所について、地下水が湧き出て地面ににじみ、例年いち早く花を咲かせている」と説明。「一回終わってまた花が咲くのは珍しい。これまで聞いたことがない」と語った。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。